

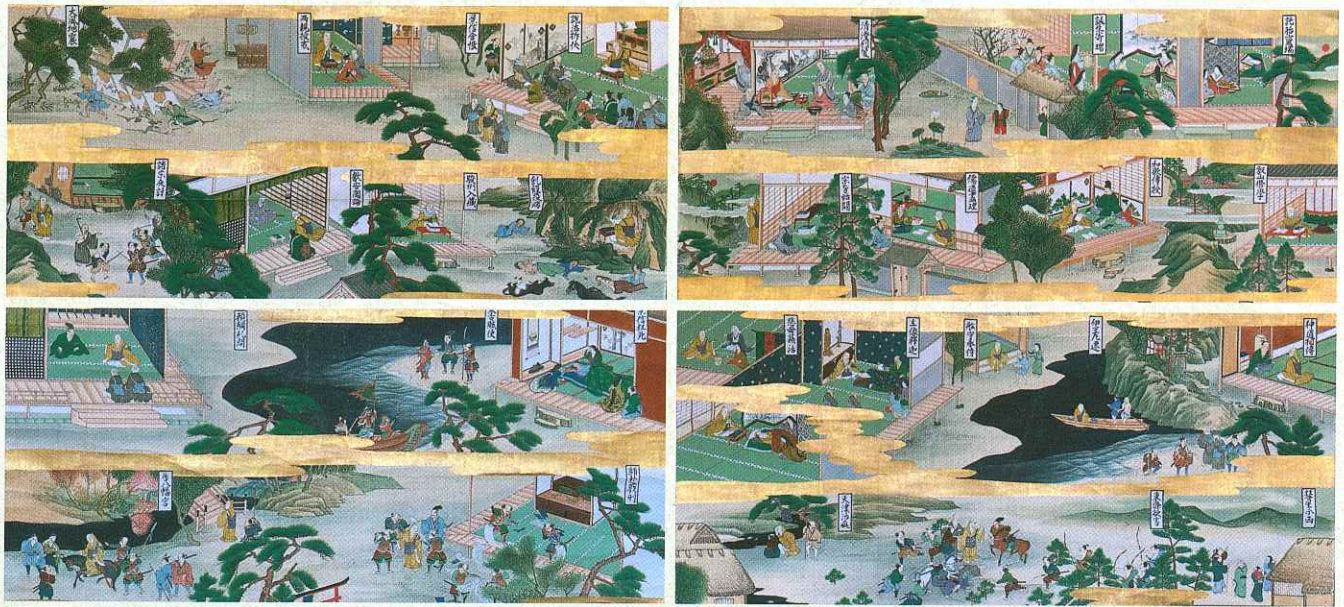
法華宗信報



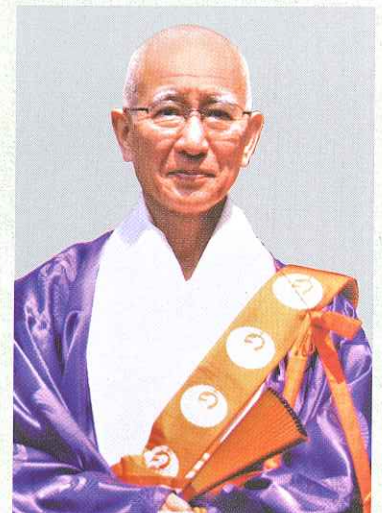
信心の かけ橋

法華宗信報 165 号目次

- 2 宗祖日蓮聖人御生誕八百年
興隆学林専門学校 学林長 大平宏龍
- 4 備中講頓写音楽大法要の歴史
- 6 岡山県備中地方（北部）寺院マップ
- 8 施餓鬼旗について 編集後記



宗祖日蓮聖人御生誕八百年



興隆学林専門学校 学林長

おお ひら こうりょう
大平宏龍

一、聖年を迎えて

本年は法華宗の私共にとり特別な年です。言うまでもなく、日蓮聖人が承久四年（一二二二）二月一六日にお生まれになって、今年の令和三年（二〇二二）が八百年目だからです。自分の人生にとってこのような特別な時を生きることは、信者としてはおめでたい限りで、本来ならそれぞれのお寺で、あるいは御本山で、また記念式典の会場で、多くの人と嬉しく楽しくお題目を唱えられるはずでした。ところが御承知のコロナ禍は、そのようなお祭り気分を吹き飛ばしてしまったのです。心理学者の河井隼雄氏の口ぐせを借りれば「二つよいことさて無いものよ」です。

二、御生誕七百年の頃

日蓮聖人の御誕生日（無論、本来は旧暦ですが）に近い去る二月八日、私のみた『朝日新聞』に「災いの時代に日蓮の教え」の題で特集記事が載っていました。この日付から私は百年前、つまり日蓮聖人御生誕七百年の時を思い起こしました。聖年は大正一〇年（一九二二）でしたが、大正八年に杉原祥造という人のおかげで日蓮聖人御所持の名刀数珠丸が法華宗（本興寺）へ納まり、一年に旧国宝となったのでした。杉原氏は当時、有力な刀剣鑑定家・蒐集家でしたが、数珠丸が海外へ売却されようとしたのを私費で買い取られました。それが不思議の縁で本興寺所有となったのです（野村日政上人『数珠丸記』）。その杉原氏の祥月命日が二月八日と記憶していたからです。この大正から昭和にかけては、多方面の人の日蓮主義を奉じての活動がありました。日蓮聖人に立正大師号が贈られたのも大正一二年です。しかしまたこの頃には、スペイン風邪の世界的流行もありました。八百年の今とコロナ禍を思わずにはいられません。

三、日蓮聖人の御教え

今年の正月の施本にも書いたように、日蓮聖人の御教えは南無妙法蓮華経と唱えながら生きてゆくことの大切さ、ありがたさに尽き

ます。お題目には、はかりしれない功德がおさまっているのです、何もわからず軽い気持ちでも、唱えているとよい心持ちになつてきます。それは脳の研究者の方でも解明されているように、お題目を唱えていると私たちの脳にはα波が出て、ストレスも解消されていくというのです(『大法輪』令和元年一月号、一三四～一三五頁)。お題目を何度も唱えていると次第に心が軽くなり、心が鼓舞されてきます。それは法華經に基づく日蓮聖人の御教えの特色の一つです。株橋日涌先生はよく「散った桜もまた咲く桜」と表現しておられました。現実を前向きに捉えるということです。

コロナ禍は、冷静に科学的に対処することが必要です。その考え方は仏教と矛盾しません。そのことに加えて、私たちは多くの人と共に生きていることを思い出したい。医療現場で関係の方々が必死に活動されていることに感謝しながら、私たちも協力して疫病を収束させることを目指さねばなりません。日蓮聖人の原点である「立正安国」は、正しい考え方に基づいて、他ならぬ此の世の人と共に、幸せを実現しなければならぬということでした。

四、お盆を迎えて

日蓮聖人の御教えで、もう一つ大事なことは、私たちは亡き人と共にあるということです。コロナ禍の為に、大切な人に対面もできな

い葬儀のことなども多く報道されました。大災害でのつらい場面も重なります。

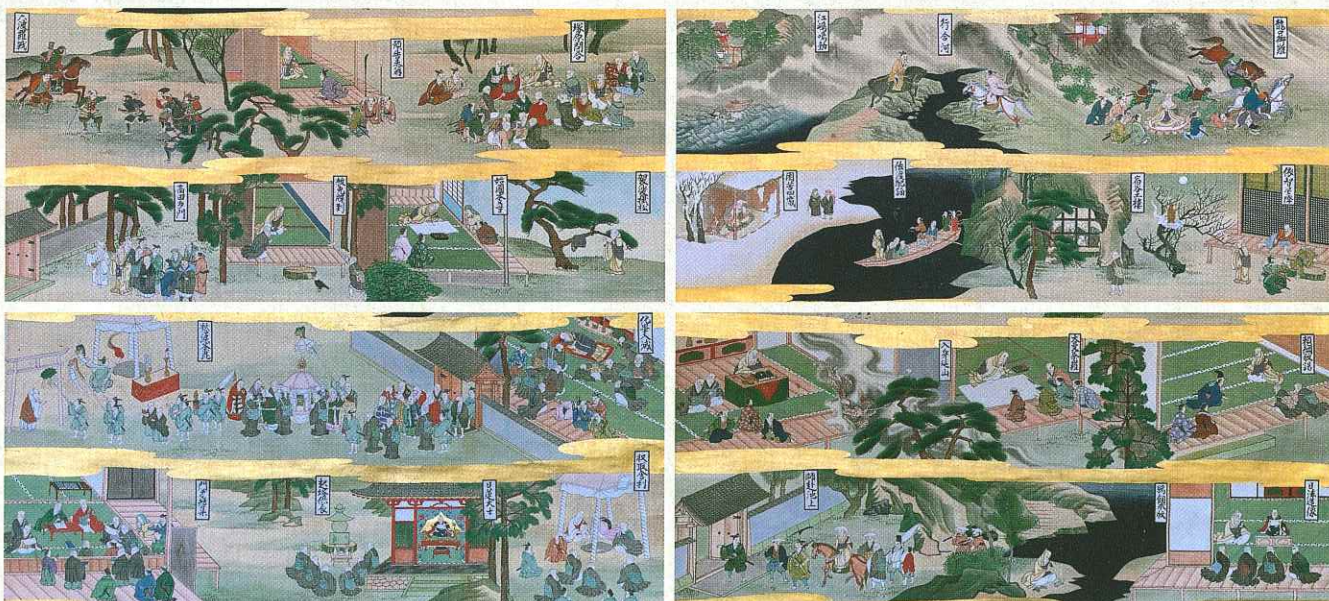
日蓮聖人は唱題と法華經読誦の功德により、この世で別れた人も霊山浄土でまた会える。それを信じて、亡き人への回向を続けながら、しっかりと生きてゆくよう励まされました。人生を真剣に考えれば、これもまた大切なことです。

五、お題目でみんな安心

日蓮聖人の御文章(『孟蘭盆御書』)には、目連尊者が法華經を信じまいらせし大善は、我が身仏になるのみならず、父母仏になりたまう。上七代下七代、上無量生下無量生の父母等、存外に仏となりたまう。ないし子息・夫妻・所従・檀那・無量の衆生三惡道をはなる、のみならず、皆初住・妙覺の仏となりぬ。故に法華經の第三に云く、願くは此の功德を以て普く一切に及ぼし、我等と衆生と皆共に仏道を成ぜん云云。

とあります。法華經を信じることで、誰もが成仏できるのですから、これ以上の安心はありません。まして生きづらいことの多い今だからこそ、日蓮聖人の御教えの弘まることで強く望まれるのではないのでしょうか。

(令和三年四月一三日摘筆)



「日蓮大聖人一代記絵三幅」牛窓本蓮寺蔵



備中講頓写音楽大法要の歴史

昭和 35 年妙徳寺での頓写法要

岡山県備中地域にある十三ヶ寺(備中組寺)では、毎年春頃に「備中講頓写音楽大法要(以下、頓写法要)」という法要が行われています。この法要は備中組寺の各寺が輪番で僧俗一体となって厳粛に行う法要です。

一、頓写法要とは

「頓」は即座に、「写」は写すという意味であり、これはお経文を書き写す「写経」に関連した用語であります。一人では一度に少しづつしか書写できませんが、大勢の人で書写すれば一度にたくさん、しかも早く書写することが出来ます。大部の



法華経の写経

お経を一日で書き終えるといったことが行われたことから「一日経」と呼ばれたりもします。この書写行は自身のため、他者のために利益を得るための行為であり、目的としては「報恩感謝」や「追善供養」であります。このような修行は平安・鎌倉時代に盛んに行われ、主に「法華経」が書写されてきました。日蓮聖人もご信者と共にこの修行を実践されたことが伝わっております(『地引御書』)。さて、このようなお経の書写に関して「法華経」のご文を拝見しますと、

もしまた人あつて妙法華経乃至一偈を受持・読誦し解説・書写し此の経巻に於いて敬い視ること仏の如くにして種種に華・香・瓔珞・抹香・塗香・焼香・繪蓋・幢幡・衣服・伎楽を供養し、乃至合掌恭敬せん

(『法華経』法師品)

とありますように、書写行があげられ、十種類の供養方法が示されております。現在の頓写法要では当番寺院の住職が法華経を書写し、御宝前にお供えしていますが、お経文に従えば、書写された「法華経」の一字一句は仏そのものとして奉安されていることになります。さらに言えばこの法要の特色の一つとして出仕の僧侶が楽器を担当して「越天楽」をお供えしておりますが、これは十種の内の「伎楽(音楽)」に当たります。このことから頓写法要は「法華経」の説を典拠としているのはいまでもありません。

二、起源について

今から約三百年前の享保五年(一七二〇)頃が起源と伝えられております。松屋家は若くして亡くなった我が子のため、そして竹屋家は鳥羽家から嫁いできた妻が子のいないままに亡くなったため、それぞれが永代供養を備中組寺院にお願いをしたところから、頓写法要は



竹屋家墓



松屋家墓

生まれました。

それら最初に頓写法要を志した方たち（松屋家・竹屋家・中興鳥羽家）を「本願主」といい、その本願主の子らの供養を志す法要を「本願写」といいます。その後、備中組寺檀信徒が本願主の功德に及ぼされ、それぞれ先祖の永代供養を志していきました。その新しく供養を志された方の法要を「新頓写」といい、代々伝わる霊簿に毎年新しく書き加えていきます。そして、次年度以降はその霊簿を法要中に読み上げるることによって永代に供養を行います。

また、法要終了後には、当番寺住職と総代が揃って本願主の墓参りをするのが慣わしとなっています。



霊簿

頓写本願主などの位牌

三、輪番について

頓写法要は、十二年で備中組寺を一回りする輪番法要です。当番寺院としては本願主のお位牌をお迎えして、一年間ご供養させていただきますという重要な役目があります。また、十二年に一度の大きな法要ですから、法要が行われる数年前から準備を始め、本堂内外の荘厳をし、仏具などを揃えたり、境内地の整備をしたりして準備をしています。各組寺が毎年、お互いに御供えをすることです。そのような

整備や準備の助成となり、各組寺が寺門興隆、維持発展していくことに寄与しています。

法要終了後、新旧当番寺院の住職・総代が揃った上で御宝前において、厳重に「引き継ぎの儀式」を行います。これはこの輪番制を尊ぶ意味からであり、またこの頓写法要は当番寺院だけの法要ではなく、備中組寺全体の法要であるという考えから組寺の各総代は全員参詣して、この頓写法要の意義をお互いに確認し合います。さらに、参詣の檀信徒にとってもお互いの組寺に参することにより、檀信徒同士の交流、親睦を深める場となり、また異体同心となってお題目を一緒に唱えることで、法華宗信徒のつながりを改めて認識する場にもなっています。

○当番寺の輪番表

子の年	岡山市北区東山内	妙圓寺
丑の年	岡山市北区山上	正福寺
寅の年	岡山市北区下足守	三仙寺
卯の年	岡山市北区足守	東光寺
辰の年	岡山市北区日近	善修寺
巳の年	吉備中央町竹部	妙福寺
午の年	吉備中央町上野	法福寺
未の年	岡山市北区東山内	本乗寺
申の年	岡山市北区新庄上	本隆寺
酉の年	岡山市北区高松田中	新福寺
戌の年	岡山市北区足守	乗典寺
亥の年	岡山市北区粟井	法昌寺
	総社市赤浜	妙徳寺

昨年来のコロナ禍により大勢の檀信徒に参詣していただくことが難しくなっており、法要の執り行い方にも大変苦心しています。昨

年は時期を秋に変更し、規模を縮小して奉修しました。

これまでこの頓写法要が続けられてきた約三百年の長い間には、戦争や自然災害などいろいろな困難があったはずですが、それでも備中組寺の歴代人や檀信徒の様々な尽力によって続けてこられ、今日に至っています。現在を生きる私たちは今のコロナ禍を乗り越え、頓写法要の意義を改めて見つめ直し、この伝統的な頓写法要を今後も継続していくための努力をしていかなければなりません。



引き継ぎの儀式

寺院マップ～岡山県備中地方(北部)～

313

法福寺

〒709-2344
加賀郡吉備中央町
上野 423



きびプラザ ●

賀陽 IC

484

吉備中央町

妙福寺

〒709-2343
加賀郡吉備中央町
竹部 1009



妙圓寺

〒701-1611
岡山市北区東山内
1555



岡山自動車道

法昌寺

〒701-1461
岡山市北区栗井
1495-1



高梁川

180

総社駅

東総社駅

一ノミ 法華宗(本門流)